

13. 国立湊病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成9年10月1日
 移譲先 共立湊病院組合(共立湊病院組合は病院運営を(社)地域医療振興協会に管理委託)
 移譲後の名称 共立湊病院

区分	国立湊病院	共立湊病院
病床数	平成9年9月現在 185床(250床) [一般150、結核10]	平成10年4月現在 150床[一般150]
診療科	平成9年9月現在 内科、循環器科、小児科(休診)、外科、整形外科、婦人科(休診)、リハビリテーション、歯科(休診) (8科)	平成10年4月現在 内科、外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科 (5科)
職員数	平成9年9月現在 111人 うち 医師 7人 看護職員 57人	平成10年4月現在 126人 うち 医師 13人 看護職員 66人
患者数	平成8年度一日平均 入院患者数 114.4人 外来患者数 218.7人	平成9年10月～平成10年3月一日平均 入院患者数 117.7人 外来患者数 265.2人
救急取扱数	※救急告示のみで病院輪番制に参画せず	平成9年10月～平成10年3月一月平均 221.7人

(注)国立湊病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

伊豆圏域の中核となる病院として他の医療機関と連携し、第二次救急医療を担当して、地域の一般的な医療需要を充足し、順調に運営されている。

1. 診療科については、呼吸器科、リハビリテーション科及び休診中の小児科、婦人科、歯科を廃止することになるが、新たに眼科及び耳鼻咽喉科を設置するとともに、医師数を7人から13人に、看護職員も57人から66人に強化されている。
2. 救急告示医療機関の指定を受け、病院輪番制に参画して救急医療を担当している。
3. 最新の医療機器を整備して高度な医療に対応できるようにし、また、人間ドックを始めとする検診活動も実施している。
4. 診療機能の強化に伴って必要となる医師・看護職員等については、継続的に確保に努め、地域に良質な医療を提供する体制の整備が図られている。
5. 将来的には、経営の状況や地域の医療状況を踏まえ、老人保健施設や特別養護老人ホームを開設予定として、その整備を図る。

14. 国立療養所志布志病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成9年12月1日
 移譲先 (社)曾於郡医師会
 移譲後の名称 曾於郡医師会立有明病院

区分	国立療養所志布志病院	曾於郡医師会立有明病院
病床数	平成9年11月現在 145床(220床) [一般150、結核50、伝染20]	平成10年4月現在 190床 [一般150、結核20、伝染20]
診療科	平成9年11月現在 内科、外科 (2科)	平成10年4月現在 内科、外科、整形外科 (3科)
職員数	平成9年11月現在 111人 うち 医師 6人 看護職員 62人	平成10年4月現在 111人 うち 医師 6人 看護職員 57人
患者数	平成8年度一日平均 入院患者数 108.5人 外来患者数 95.2人	平成9年10月～平成10年3月一日平均 入院患者数 108.7人 外来患者数 80.8人
救急取扱数	平成8年度一月平均 157.0人	平成9年10月～平成10年3月一月平均 178.0人

(注)国立療養所志布志病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

曾於郡圏域の医療ニーズに応じ、曾於郡医師会立病院とともに会員医療機関との病病・病診連携を図り、それぞれの機能分担に応じた医療を行うとともに、大隅半島(2市17町)唯一の結核施設として結核病床(20床)を確保し順調に運営されている。

1. 運営病床数は、国立時代の145床から190床(うち療養型病床群130床)に増床し、地域の医療ニーズに対応した運営を行っている。
2. 診療科については、整形外科を新たに設置することにより診療機能の強化を図り、また、医師数を6人から6人に強化する。
3. 救急医療については、曾於郡医師会立病院並びに会員医療機関と連携を図りその確保に努めている。
4. 地域保健の充実として、伝染病等の併設、健康教育、町民検診、がん検診を実施している。
5. 患者サービスの向上に積極的に努めるとともに、診療機能強化に伴って必要となる医師・看護職員等については、継続的に確保に努め、地域に良質な医療を提供する体制の整備が図られている。
6. 老人保健施設、訪問看護ステーションを平成10年12月に開設予定とし、将来的な展望として、特別養護老人ホーム、経費老人ホームとの連携やリハビリテーションセンター、デイケア・ナイトケアセンターの開設を考慮していることとしている。

15. 国立療養所津山病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成9年12月1日
 移譲先 財団法人津山慈風会
 移譲後の名称 財団法人津山慈風会津山中央病院

区分	国立療養所津山病院	(財)津山慈風会津山中央病院東分院	(財)津山慈風会津山中央病院
病床数	平成9年11月現在 180床(335床) [一般200、結核100、伝染35]	平成10年4月現在 175床 [一般90、結核50、伝染35]	平成11年12月現在 564床 [一般479、結核50、伝染35]
診療科	平成9年11月現在 内科、呼吸器科、外科、整形外科、脳神経外科 (5科)	平成10年4月現在 内科、呼吸器科、整形外科、リハビリテーション科 (4科)	平成11年12月現在 内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、気管食道科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、麻酔科 (20科)
職員数	平成9年11月現在 うち 医師 9人 看護職員 80人	平成10年4月現在 うち 医師 4人 看護職員 46人	平成11年12月現在 うち 医師 54人 看護職員 322人
患者数	平成8年度一日平均 入院患者数 140.5人 外来患者数 158.8人	平成9年10月～平成10年3月一日平均 入院患者数 74.3人 外来患者数 107.2人	平成11年12月～平成12年5月一日平均 入院患者数 - 外来患者数 -
救急取扱数	平成8年度一月平均 ※病院輪番制に参画 340.9人	※現在の津山中央病院で対応 -	平成11年12月～平成12年5月一月平均 -

(注)国立療養所津山病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

県北地域医療推進対策協議会が県北地域の超高齢化社会及び、救命救急などを行う高機能病院の整備等に対応するために策定した「県北地域の保健・福祉・医療の拠点づくり」新基本計画に基づき、財団法人津山慈風会津山中央病院（以下「新病院」という。）を開設する。新病院は、現在の財団法人津山慈風会総合病院津山中央病院（以下「現病院」という。）の病床等の診療機能を国立療養所津山病院の地において統合整備し、平成11年12月1日を目途に開設する。なお、国立療養所津山病院の経営移譲後、新病院開設までの間は財団法人津山慈風会津山中央病院東分院（以下「東分院」という。）として位置付け、運営を行っている。

【新病院の基本構想】

1. 運営病床数は、津山中央病院を統合整備することにより、一般病床479床（うち救命救急センター20床、療養型病床群90床）、結核病床50床、伝染病床35床で、地域の医療要求に対応した運営を行う。
2. 診療科についても、津山中央病院を統合整備することにより、消化器科、循環器科、小児科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、気管食道科、リハビリテーション科、放射線科、歯科及び麻酔科を新たに設置することで診療機能の強化を図る。
3. 救命救急センターを併設し、ICU等を設置して24時間体制により県北30万住民の救命に寄与する。
4. 県北地域の中核病院、地域に密着した総合病院として整備拡充するとともに、地域の医療機関との連携を図る。
5. 療養型病床群を開設し慢性期疾患の対応、リハビリテーション機能を充実させ社会復帰への助力、さらに、訪問看護ステーションと併せて在宅介護支援センターを整備し、高齢化を睨んだ在宅支援に対応できる体制を敷く。
6. 職員総数は574人で、患者サービスの向上に積極手に努めるとともに、診療機能の強化に伴って必要となる医師・看護職員等については、継続的に確保に努め、地域に良質な医療を提供する体制の整備を図る。

【東分院の運営計画】

1. 運営病床数は、一般病床90床（うち療養型病床群90床）、結核病床50床、伝染病床35床で運営を行う。
2. 診療科については、内科、呼吸器科、整形外科、リハビリテーション科の4科診療で運営し、救急時は現病院で対応する。
3. 現在、国立療養所津山病院で実施している業務委託（電気保安業務、外来窓口業務、診療費保険請求業務の一部）は引き続き実施するとともに、給食業務を業務委託する。
4. 現在の職員数は90名とし、うち医師数は4名、看護職員数は46名としている。

16. 国立療養所明星病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成10年12月1日
 移譲先 三重県済生会
 移譲後の名称 済生会明和病院

区分	国立療養所明星病院	済生会明和病院
病床数	平成10年11月現在 180床(300床) [一般100、結核200]	平成10年12月現在 188床 [療養型病床群138、結核50]
診療科	平成10年11月現在 内科、神経内科、呼吸器科、リハビリテーション科 (4科)	平成10年4月現在 内科、神経内科、呼吸器科、リハビリテーション科 (4科)
職員数	平成10年11月現在 101人 うち 医師 6人 看護職員 55人	平成10年4月現在 117人 うち 医師 6人 看護職員 43人
患者数	平成9年度一日平均 入院患者数 160.2人 外来患者数 81.1人	平成10年12月～平成11年6月一日平均 入院患者数 144.9人 外来患者数 100.3人
救急取扱数	平成9年度一月平均 71.2人	平成10年12月～平成11年6月一月平均 0人

(注)国立療養所明星病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

地域に密着した保健・医療・福祉活動を主に済生会松坂総合病院との「病・病連携」による慢性期疾患を行う等総合医療福祉システムの構築を図る。

1. 運営病床数は、国立時代の180床から188床(うち療養型病床群138床)に増床し、地域の医療要求に対応した運営を行う。
2. 理学療法士・作業療法士の増員を図り、リハビリテーション科を充実し、早期社会復帰を目指したリハビリ機能の強化を図る。
3. 今後の高齢化に対応するため入浴・乾燥サービス事業、訪問看護ステーション事業を行う。
4. 職員総数については、国立時代の101人から117人にし、患者サービスの向上に積極的に努めるとともに、診療機能の強化によって必要となる医師・看護職員等については、継続的に確保に努め、地域に良質な医療を提供する体制の整備を図る。
5. 重症心身障害児(者)施設を平成12年度に開設予定とし、将来計画として、在宅介護支援施設及び福祉施設を加え、地域の必要とする保健・医療・福祉の総合的拠点施設としていく。

17. 国立鳴子病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成11年2月1日
 移譲先 鳴子町
 移譲後の名称 町立鳴子温泉病院

区分	国立鳴子病院	町立鳴子温泉病院
病床数	平成11年1月現在 210床(210床)[一般210]	平成11年2月現在 170床[一般50、療養型病床群120]
診療科	平成11年1月現在 内科、外科、整形外科、リハビリテーション科 (4科)	平成11年2月現在 内科、神経内科、外科、整形外科、リハビリテーション科、眼科、耳鼻咽喉科 (7科)
職員数	平成11年1月現在 117人 うち 医師 6人 看護職員 66人	平成11年2月現在 107人 うち 医師 9人 看護職員 65人
患者数	平成9年度一日平均 入院患者数 132.3人 外来患者数 116.1人	平成11年2月～平成11年7月一日平均 入院患者数 147.2人 外来患者数 119.7人
救急取扱数	平成9年度一月平均 62.7人	平成11年2月～平成11年7月一月平均 155.1人

(注)国立鳴子病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

町民の健康を守り、町民のサービスに徹し、町民にやさしい、町民に信頼される病院作りを基本理念とし、保健・医療・福祉総合化の中核施設の構成部門として、その推進に協力し、支援を行う。

1. 診療科については、神経内科、眼科及び耳鼻咽喉科を新たに設置することにより診療機能の強化を図る。
2. 鳴子町民の24時間医療を確保するため、初期救急(一時救急)を実施する。
3. 町民の大きな期待、信頼に応えるため、予防医療、急性ケア医療、長期ケア医療、末期医療等、医療需要の多様化に対応する。
4. 近隣の基幹病院、診療所、かかりつけ医師等との連携を強化し、機能分担を図りながら、町民に対する一般医療、救急医療及び災害医療に対する機能を発揮する。
5. 地域の特性である温泉を有効利用し、リハビリ・ケア及び長期療養者への医療提供の充実を図る。
6. 将来的には、保健・医療・福祉総合センター(仮称)として、町立病院の他、これに併設する訪問看護ステーション、在宅介護支援センター、デイサービスセンター、ケアハウスの計画を策定し、逐次整備を進める。

18. 国立大田病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成11年2月1日
 移譲先 大田市
 移譲後の名称 大田市立病院

区分	国立大田病院	大田市立病院
病床数	平成11年1月現在 275床(301床)[一般281、結核20]	平成11年2月現在 355床[一般280、療養型病床群55、伝染20]
診療科	平成11年1月現在 内科、消化器科、循環器科、小児科、外科、 整形外科、皮膚泌尿器科、産婦人科、眼科、 耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線 科、歯科(休診中)、麻酔科 (14科)	平成11年2月現在 内科、精神科、神経内科、消化器科、循環器 科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、 皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽 喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻 酔科 (17科)
職員数	平成11年1月現在 うち 医師 17人 看護職員 113人 200人	平成11年2月現在 うち 医師 32人 看護職員 118人 203人
患者数	平成9年度一日平均 入院患者数 226.9人 外来患者数 445.3人	平成11年2月～平成11年7月一日平均 入院患者数 210.6人 外来患者数 509.0人
救急取扱数	平成9年度一月平均 651.3人	平成11年2月～平成11年7月一月平均 475.0人

(注)国立大田病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

大田二次医療圏の中核病院としての役割が担えるよう、医療機能を充実整備し、病診・病病連携を積極的に推進することにより、地域医療体制の強化を図る。

1. 運営病床数は、国立時代の275床から355床(うち療養型病床群55床)に増床し、地域の医療ニーズに対応した運営を行う。
2. 診療科については、精神科、神経内科及び神経外科を新たに設置することにより診療機能の強化を図り、また、医師数を17人から32人に、看護職員も113人から118人に強化する。
3. 理学療法士・作業療法士の確保を図り、リハビリテーション医療の充実を図る。
4. 救急医療については、大田市民の24時間医療の確保に努める。
5. 保健、福祉分野との連携により、保健・医療・福祉の一体的サービスを図るとともに、運営の合理化を推進する。
6. 職員総数については、国立時代の200人から203人にし、患者サービスの向上に積極的に努めるとともに、診療機能の強化に伴って必要となる医師・看護職員等については、継続的に確保に努め、地域に良質な医療を提供する体制の整備を図る。

19. 国立泉北病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成11年3月1日
 移譲先 近畿大学
 移譲後の名称 近畿大学医学部堺病院

区分	国立泉北病院	近畿大学医学部堺病院
病床数	平成11年2月現在 338床(500床)[一般440、結核60]	平成11年3月現在 440床[一般440]
診療科	平成11年2月現在 内科、神経内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、麻酔科 (18科)	平成11年3月現在 内科、心療内科、神経内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、麻酔科 (19科)
職員数	平成11年2月現在 うち 医師 20人 看護職員 111人 208人	平成11年3月現在 うち 医師 43人 看護職員 46人 113人
患者数	平成9年度一日平均 入院患者数 224.9人 外来患者数 483.3人	平成11年3月～平成11年7月一日平均 入院患者数 50.2人 外来患者数 486.7人
救急取扱数	平成9年度一月平均 312.4人	平成11年3月～平成11年7月一月平均 62.4人

(注)国立泉北病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

医療の高度化、多様化に対応した診療を行い、病診・病病連携等、地域医療を支援する体制の強化を図るとともに、地域の包括的医療体制における中核的病院を目指す。

1. 運営病床数は、国立時代の338床から440床に増床し、地域の医療需要に対応した運営を行う。
2. 診療科については、心療内科を新たに設置することにより診療機能の強化を図る。
3. 地域医療計画との整合性を図りながら、地域医師会との連携により機能分担及び施設・整備の共同利用を図る。
4. 近畿大学医学部附属病院及び地域医療機関と連携を図り、難病・悪性新生物等に関する高度な医療を提供する。
5. 医師の卒前・卒後教育及び研修を行うとともに、看護師、その他医療従事者の教育実習の受入を行う。
6. 将来的には、センター方式(難病センター・悪性新生物センター)として病院整備を行うとともに、高度な救急提供体制を整備し、診療機能の充実を図る。

20. 国立明石病院岩屋分院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成11年12月1日
 移譲先 社会福祉法人 聖隷福祉事業団
 移譲後の名称 聖隷淡路病院

区分	国立明石病院岩屋分院	聖隷淡路病院
病床数	平成11年11月現在 90床(102床)[一般74、結核28]	平成11年12月現在 152床[一般102、療養型病床群50] ※開設当初は102床[一般102床]
診療科	平成11年11月現在 内科、外科、産婦人科(休診中) (3科)	平成11年12月現在 内科、外科、整形外科 (3科)
職員数	平成11年11月現在 61人 うち 医師 3人 看護職員 35人	平成11年12月現在 91人 うち 医師 11人 看護職員 45人
患者数	平成10年度一日平均 入院患者数 52.4人 外来患者数 70.5人	平成11年12月～平成12年5月一日平均 入院患者数 外来患者数
救急取扱数	平成10年度一月平均 121.2人	平成11年12月～平成12年5月一月平均

(注)国立明石病院岩屋分院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

保健・医療・福祉の連携を強化した包括的な医療が実践できる病院を設立し、淡路島北部の信頼される中核的医療機関として住民の健康と生命を守るべく、地域の医療欲求に対応した運営を行う。

1. 病院の運営については、国立明石病院岩屋分院の医療機能を引き継ぎ、更に初期医療体制の充実、診療機能の強化を図る。
2. 外科系を中心とした救急患者の受入を24時間体制で実施する。
3. 地域医師会との連携により、施設・整備の共同利用、機能分担を図り、病診・病病連携を行う。
4. 予防医学の観点から、自治体、保健所、地域医師会との協力体制のもと、住民検診、企業検診の実施など地域の保健事業の充実に寄与する。
5. 訪問看護ステーションを開設し、在宅医療の支援を行う。
6. 将来的には、高齢者等への質の高い医療を提供するため、療養型病床群の整備及びホスピスの設置並びに在宅介護の支援を行う。

21. 国立浜松病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成11年12月1日
 移譲先 浜松市（浜松市は病院運営を浜松市医療公社に管理委託）
 移譲後の名称 浜松市リハビリテーション病院

区分	国立浜松病院	浜松市リハビリテーション病院
病床数	平成11年11月現在 147床（230床）[一般230]	平成11年12月現在 180床[一般136、療養型病床群44] ※開設当初は92床[一般92床]
診療科	平成11年11月現在 内科、循環器科（休診中）、小児科、外科、 整形外科、皮膚科、産婦人科（休診中）、眼 科、耳鼻咽喉科（休診中）、放射線科（休診 中）、歯科（休診中） (11科)	平成11年12月現在 内科、整形外科、リハビリテーション科 (3科)
職員数	平成11年11月現在 90人 うち 医師 7人 看護職員 44人	平成11年12月現在 85人 うち 医師 10人 看護職員 44人
患者数	平成10年度一日平均 入院患者数 73.7人 外来患者数 101.1人	平成11年12月～平成12年5月一日平均 入院患者数 外来患者数
救急取扱数	平成10年度一月平均 29.6人	平成11年12月～平成12年5月一月平均

(注)国立浜松病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

市民の医療に対する要望に対応した病院とし、他の医療機関、保健・福祉施設等との連携体制を構築し、地域リハビリテーションシステムの体制の整備を図る。

1. 運営病床数は、国立時代の147床から180床（うち療養型病床群44床）に増床し、地域の医療需要に対応した運営を行う。
2. 理学療法士・作業療法士の増員を図り、真に職場復帰、社会復帰を目指した専門的かつ高度なりハビリテーション医療の提供を図る。
3. 療養型病床群の開設（平成13年4月1日予定）により療養環境の向上を図る。
4. 職員総数については、国立の時の90人から155人（療養型病床群開設時）にし、患者サービスの向上に積極的に努めるとともに、診療機能の強化に伴って必要となる医師・看護職員等については、継続的に確保に努め、地域に良質な医療を提供する体制の整備を図る。
5. 将来的には、静岡県西部地域のリハビリテーション医療の中核を担う医療施設として整備していく計画である。

22. 国立療養所西香川病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成12年2月1日
 移譲先 高瀬町（高瀬町は病院運営を観音寺市・三豊郡医師会に管理委託）
 移譲後の名称 高瀬町立西香川病院

区分	国立療養所西香川病院	高瀬町立西香川病院
病床数	平成12年1月現在 200床(200床) [一般100、結核50、精神50]	平成12年2月現在 150床 [一般40、療養型病床群60、精神50]
診療科	平成12年1月現在 内科、精神科、神経科、循環器科、外科(休診中)、整形外科、リハビリテーション科 (7科)	平成12年2月現在 内科、呼吸器科、精神科、整形外科、リハビリテーション科、歯科 (6科)
職員数	平成12年1月現在 120人 うち 医師 8人 看護職員 66人	平成12年2月現在 92人 うち 医師 10人 看護職員 43人
患者数	平成10年度一日平均 入院患者数 138.6人 外来患者数 97.2人	平成12年2月～平成12年7月一日平均 入院患者数 外来患者数
救急取扱数	平成10年度一月平均 48.8人	平成12年2月～平成12年7月一月平均

(注)国立療養所西香川病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

既に到来している高齢化社会に適応した、地域における保健・医療・福祉の拠点病院としての役割が担えるよう、医療機能を充実する。

1. 近隣の病院・診療所などかかりつけ医との連携を積極的に推進し、地域医療体制の強化を図る。
2. 介護保険導入を踏まえ、高齢化社会に対応するため療養型病床群の開設及び痴呆対策のための老人痴呆性疾患療養病棟を設置し、入院在宅を含めて身体に及ぶ包括的なケア医療の提供を行う。
3. 理学療法士・作業療法士の確保を図り、リハビリテーション医療の充実を図る。
4. 一次救急医療の実施。
5. 町民の健康維持・推進のための健康センター的な役割を担えるよう機能の充実を図る。
6. 将来的には、福祉ネットワークの拠点としての役割を担うべく、老人保健施設、デイサービスセンター、在宅介護支援センター、訪問看護ステーション、リハビリテーションセンター等の併設の計画を策定する。

23. 国立療養所武雄病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成12年2月1日
 移譲先 武雄市
 移譲後の名称 武雄市立武雄市民病院

区分	国立療養所武雄病院	武雄市民病院
病床数	平成12年1月現在 150床(155床)[一般135、結核20]	平成12年2月現在 155床[一般135、結核20] ※開設当初は105床[一般85、結核20]
診療科	平成12年1月現在 内科、外科、リハビリテーション科 (3科)	平成12年2月現在 内科、外科、リハビリテーション科 (3科)
職員数	平成12年1月現在 101人 うち 医師 7人 看護職員 54人	平成12年2月現在 69人 うち 医師 7人 看護職員 48人
患者数	平成10年度一日平均 入院患者数 77.1人 外来患者数 85.4人	平成12年2月～平成12年7月一日平均 入院患者数 外来患者数
救急取扱数	平成10年度一月平均 116.3人	平成12年2月～平成12年7月一月平均

(注)国立療養所武雄病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

市民の生命と健康を守り、信頼する医療機関として市民の医療需要に対応した病院運営を行い、患者サービスの市民の向上に努め、市民に良質な医療の提供を行う。

1. 救急告示病院として、二次救急医療体制を確立し、地域の病院群輪番制に参画するとともに、一次の救急医療需要等に対しても毎日24時間対応できる救急医療体制を確立する。
2. 佐賀県南部保健医療圏における結核医療を担当する。
3. 保健・医療・福祉の相互の連携を強化するための基幹病院として位置付け、地域の医療機関との連携を図る。

24. 国立鯖江病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成12年2月1日
 移譲先 公立丹南病院組合（公立丹南病院組合は病院運営を地域医療振興協会に管理委託）
 移譲後の名称 公立丹南病院

区分	国立鯖江病院	公立丹南病院
病床数	平成12年1月現在 170床(270床) [一般200、結核50、伝染20]	平成12年2月現在 199床[一般158、療養型病床群41]
診療科	平成12年1月現在 内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科 (13科)	平成12年2月現在 内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科 (12科)
職員数	平成12年1月現在 146人 うち 医師 14人 看護職員 84人	平成12年2月現在 177人 うち 医師 22人 看護職員 96人
患者数	平成10年度一日平均 入院患者数 108.2人 外来患者数 270.4人	平成12年2月～平成12年7月一日平均 入院患者数 外来患者数
救急取扱数	平成10年度一月平均 288.8人	平成12年2月～平成12年7月一月平均

(注)国立鯖江病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

保健・医療・福祉の連携を強化した、包括的医療を実践し、丹南地域における公的な中核病院として、住民の健康と生命を守るべく地域の医療需要に対応した運営を行う。

1. 運営病床数は、国立時代の170床から199床に増床し、地域の医療需要に対応した運営を行う。
2. 丹南地域の救急医療体制の充実を図るため、救急告示病院の指定を受け、病院群輪番制を実施する。
3. 高齢者等への質の高い医療を提供するため、療養病床群の整備を行うとともに、デイケアの整備を図る。
4. 地域医療計画との整合性を図りながら、地域医師会との連携を図ると共に、へき地医療を支援するため、診療所等に教育研修を行う。
5. 予防医学の観点から、自治体、保健所、医師会と協力し、住民検診、企業検診の実施など、地域の保健事業の充実に寄与する。

25. 国立対馬病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成12年2月1日
 移譲先 長崎県離島医療圏組合
 移譲後の名称 長崎県離島医療圏組合中対馬病院

区分	国立対馬病院	長崎県離島医療圏組合中対馬病院
病床数	平成12年1月現在 150床(148床) [一般125、結核13、精神10]	平成12年2月現在 135床 [一般90、療養型病床群37、精神8]
診療科	平成12年1月現在 内科、小児科、外科、整形外科、産婦人科、 眼科、耳鼻咽喉科、放射線科 (8科)	平成12年2月現在 内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外 科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、 リハビリテーション科、放射線科 (11科)
職員数	平成12年1月現在 93人 うち 医師 6人 看護職員 46人	平成12年2月現在 112人 うち 医師 11人 看護職員 56人
患者数	平成10年度一日平均 入院患者数 73.9人 外来患者数 151.6人	平成12年2月～平成12年7月一日平均 入院患者数 外来患者数
救急取扱数	平成10年度一月平均 171.8人	平成12年2月～平成12年7月一月平均

(注)国立対馬病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

対馬中地区の中核病院としての役割が担えるよう、医療機能を充実整備する。

1. 運営病床については、療養型病床群を開設し、介護保険導入を踏まえ、高齢化社会に対応するという地域の医療需要に対応した運営を行う。
2. 診療科については、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、リハビリテーション科を新たに設置することにより診療機能の強化を図る。
3. 24時間救急医療体制の確立、病診・病病連携の積極的な推進等により、地域医療体制の強化を図る。
4. 住民の健康維持・増進のため、積極的に患者サービスの向上に努め、地域に良質な医療を提供する。
5. 保健・福祉との連携により、保健・医療・福祉の一体的サービスを図る。

26. 国立高田病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成12年3月1日
 移譲先 上越市（上越市は病院運営を上越医師会に管理委託）
 移譲後の名称 上越地域医療センター病院

区分	国立高田病院	武雄市民病院
病床数	平成12年2月現在 125床（151床）[一般131、結核20]	平成12年3月現在 125床 [一般85、療養病床20、結核20]
診療科	平成12年2月現在 内科、呼吸器科、小児科（休診中）、外科、 産婦人科（休診中）、歯科（休診中） (6科)	平成12年3月現在 内科、外科、整形外科 (3科)
職員数	平成12年2月現在 98人 うち 医師 6人 看護職員 47人	平成12年3月現在 86人 うち 医師 7人 看護職員 62人
患者数	平成10年度一日平均 入院患者数 90.7人 外来患者数 116.7人	平成12年3月～平成12年8月一日平均 入院患者数 外来患者数
救急取扱数	平成10年度一月平均 66.6人	平成12年3月～平成12年8月一月平均

(注)国立高田病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

公的な社会的使命を果たす施設とすることに基本的理念をおき、21世紀を展望した時代のニーズに的確に対応する病院としての機能を担うとともに、上越市及び周辺市町村への、体系化された効率の良い地域医療、福祉の充実に寄与する。

1. 上越市及び周辺市町村の地域医療の実施。
2. 高齢社会に対応する療養型病床群の設置。
3. リハビリテーション医療の実施。
4. 上越サブ三次医療圏の結核医療の実施。

27. 国立三朝温泉病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成12年3月1日
 移譲先 鳥取県中部医師会
 移譲後の名称 鳥取県中部医師会立三朝温泉病院

区 分	国 立 三 朝 温 泉 病 院	鳥 取 県 中 部 医 師 会 立 三 朝 温 泉 病 院
病 床 数	平成12年2月現在 250床(250床) [一般200、結核50]	平成12年3月現在 199床[一般89、療養型病床群110]
診 療 科	平成12年2月現在 内科、神経内科、呼吸器科、外科、整形外 科、リハビリテーション科 (6科)	平成12年3月現在 内科、神経内科、整形外科、リハビリテー ション科 (4科)
職 員 数	平成12年2月現在 142人 うち 医師 8人 看護職員 78人	平成12年3月現在 165人 うち 医師 13人 看護職員 72人
患 者 数	平成10年度一日平均 入院患者数 141.8人 外来患者数 182.5人	平成12年3月～平成12年8月一日平均 入院患者数 外来患者数
救急取扱数	平成10年度一月平均 69.9人	平成12年3月～平成12年8月一月平均

(注)国立三朝温泉病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

病診・病病連携を積極的に推進し、地域医療体制の強化を図り、二次医療圏の中核病院としての役割を担えるよう、医療機能を充実整備する。

1. 運営病床数は、療養型病床群を開設し、地域の医療需要に対応した運営を行う。
2. 整形外科領域における急性期、慢性期医療機能（リウマチ医療等）の充実を図る。
3. 保健福祉分野との連携により、保健・医療・福祉に関する地域の需要に対応したサービスの提供に努める。
4. 医療従事者の資質の向上を図ることを目的とした研修機能を充実整備する。
5. 共同利用を前提とした高額医療機器を整備し、病院、診療所の後方支援病院としての機能（開放型病院機能）の充実を図り、地域の医療水準の向上に資する。

28. 国立中津病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成12年7月1日
 移譲先 中津市
 移譲後の名称 中津市立中津市民病院

区分	国立中津病院	中津市立中津市民病院
病床数	平成12年6月現在 225床(280床) [一般250、伝染30]	平成12年7月現在 254床[一般250、感染症4] ※感染症病床については、宇佐高田地区の感染症指定医療機関が整備されるまでの間は8床で運営する
診療科	平成12年6月現在 内科、循環器科、小児科、外科、整形外科、 脳神経外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科 (11科)	平成12年7月現在 内科、消化器科、循環器科、小児科、外科、 呼吸器外科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科 ※リハビリテーション科を平成14年4月1日に設置 (11科)
職員数	平成12年6月現在 180人 うち 医師 15人 看護職員 98人	平成12年7月現在 169人 うち 医師 20人 看護職員 102人
患者数	平成10年度一日平均 入院患者数 191.4人 外来患者数 282.8人	平成12年7月～平成12年12月一日平均 入院患者数 外来患者数
救急取扱数	平成10年度一月平均 267.5人	平成12年7月～平成12年12月一月平均

(注)国立中津病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

医療連携と医療機関の機能分担の推進を基本理念として、市民ニーズに対応できる公的病院としての役割及び安定的な経営を目的とした病院運営を行う。

1. 保健、医療、福祉の相互連携を強化するための基幹病院としての位置付け、地域の医療機関との連携を図る。
2. 中津下毛地区における地域中核医療施設として高度・専門的医療機能を有し、がん専門医療施設、母子医療施設としての役割を担っていく。
3. 救急告示病院として、救急医療体制の充実(周産期医療、胸部外科(肺)の救急医療)を図るとともに、病院群輪番制病院として中津下毛地区の二次救急医療に応える。
4. 開業医などとの症例検討会や看護師の実習などの教育研修機能を整備していく。
5. 患者サービスの向上に努め、市民に良質な医療を提供するとともに、効率的な病院経営を図る。

29. 国立山口病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成12年7月1日
 移譲先 豊浦町（豊浦町は病院運営を山口県済生会に管理委託）
 移譲後の名称 山口県済生会豊浦町立病院

区分	国立山口病院	済生会豊浦町立病院
病床数	平成12年6月現在 330床(345床)[一般345]	平成12年7月現在 275床[一般155、療養病床120]
診療科	平成12年6月現在 内科、神経科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科 (17科)	平成12年7月現在 内科、神経科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科 (17科)
職員数	平成12年6月現在 うち 医師 23人 看護職員 133人 231人	平成12年7月現在 うち 医師 20人 看護職員 110人 209人
患者数	平成10年度一日平均 入院患者数 261.7人 外来患者数 468.1人	平成12年7月～平成12年12月一日平均 入院患者数 外来患者数
救急取扱数	平成10年度一月平均 387.5人	平成12年7月～平成12年12月一月平均

(注)国立山口病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

下関二次医療圏の中核病院として役割が担えるよう、病病・病診の連携を図る等により、地域医療の強化を図るとともに、老人保健施設等を備えて、保健・医療・福祉サービスが一体的に提供できる体制の構築を図る。

1. 救急医療の実施。
2. 療養型病床群の設置。
3. リハビリテーション機能の充実。
4. 人工透析機能の実施。
5. 人間ドック、各種検診などの健康促進機能の充実。
6. 生活保護法患者の診療及び生活困難者に対する無料又は低額診療等の実施。

30. 国立療養所霧島病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成12年7月1日
 移譲先 隼人町（隼人町は病院運営を始良郡医師会に管理委託）
 移譲後の名称 隼人町立医師会医療センター

区分	国立療養所霧島病院	隼人町立医師会医療センター
病床数	平成12年6月現在 140床(285床) [一般250、結核35]	平成12年7月現在 250床[一般250]
診療科	平成12年6月現在 内科、外科、整形外科、リハビリテーション科、歯科 (5科)	平成12年7月現在 内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、リウマチ科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科 (12科)
職員数	平成12年6月現在 143人 うち 医師 12人 看護職員 74人	平成12年7月現在 234人 うち 医師 24人 看護職員 120人
患者数	平成10年度一日平均 入院患者数 121.4人 外来患者数 166.0人	平成12年7月～平成12年12月一日平均 入院患者数 外来患者数
救急取扱数	平成10年度一月平均 131.5人	平成12年7月～平成12年12月一月平均

(注)国立療養所霧島病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

高度化・多様化した地域の医療需要に対応し、始良保健医療圏の地域中核病院として医療圏内の医療機関の後方支援病院としての機能の充実を図る。

1. 循環器疾患に対応するとともに24時間体制の二次救急医療の実施。
2. 医療資源の有効活用と医療機関の連携を図るため、開放型病院として運営。
3. 医療資源の有効活用と医療機関の連携を図るため、開放型病院として運営。
4. 保健・医療・福祉の連携体制を構築し、温泉を活用した地域リハビリテーション医療の実施。
5. 医療関係者の教育、地域住民の健康教育機能の充実。
6. 保健所との連携と住民検診を含む保健医療の実施。

31. 国立療養所比良病院経営移譲後の機能の比較について

移譲年月日 平成12年12月1日（開設は平成14年7月）
 移譲先 日本赤十字社滋賀県支部
 移譲後の名称 大津赤十字志賀病院

区分	国立療養所比良病院	大津赤十字志賀病院
病床数	平成12年1月現在 170床(210床) [一般100、結核100]	平成12年7月現在 150床[一般100、療養病床50]
診療科	平成12年1月現在 内科、循環器科、外科、呼吸器外科、歯科 (5科)	平成12年7月現在 内科、小児科、外科、整形外科 (4科)
職員数	平成12年1月現在 105人 うち 医師 5人 看護職員 56人	平成12年7月現在 90名程度 うち 医師 看護職員
患者数	平成10年度一日平均 入院患者数 96.8人 外来患者数 42.2人	平成12年7月～平成12年12月一日平均 入院患者数 外来患者数
救急取扱数	平成10年度一月平均 32.6人	平成12年7月～平成12年12月一月平均

(注)国立療養所比良病院の病床数()は、医療法承認病床数で、[]書きは、その内訳である。

地域住民の健康と生命を守るべく医療需要に対応した運営を行うこととして、地域の医療機関との機能分担を図り、地域住民に信頼される良質な医療を提供する。

1. 大津赤十字病院との連携による急性期医療に対応した診療体制及び救急医療体制の実施・強化。
2. 急性期を過ぎた脳卒中疾患に対応するリハビリテーション機能の充実。
3. 来的に高齢者への質の高い医療の提供を目的とした療養型病床群の整備。
4. 予防医学からの観点から自治体・医師会との協力、各種検診事業への参加による地域保健事業への寄与。